**白川八幡神社とスギ**

白川八幡神社は、荻町の中心的な神道の聖地である。17世紀に、戦国武将・内ヶ島家に代わって荻町を治めていた武将・山下氏勝（1568-1653）が現在の場所に創建したと考えられている。白川では、武士の影響力が高まったことから、各地の拝所が武士の守護神である八幡を祀る八幡神社に変わった。江戸時代（1603-1867）には、白川郷と呼ばれる42の集落の総社として白川八幡が祀られていた。

鳥居脇の大きな杉や、本殿横の釈迦堂に安置されている仏像も17世紀のものである。境内には大杉の他にも本殿横の双子の杉など境内の年代を感じさせる杉が数多く見られる。杉を主体とした白川八幡神社の社叢は、神の領域と考えられており、それ自体が信仰の対象となっている。仏像は、山下氏勝が寄贈したもので、神道と仏教が日本で密接に結びついていた時代を思い起こさせるものである。1868年に神仏分離令が発令されてからは、多くの仏堂や仏像が神社から撤去されたり、破壊されたりしたが、人里離れた白川ではその影響は比較的に少なかった。